(学校番号218) 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【内谷中学校】

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において3pt向上させる。(R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・英語の「知識・技能」において全国平均を上回る。)	⇒ TPC端末で、「ドリルパーク」「スタディ・サプリ」を積極的に活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。スタディ・サプリを用いた長期休業中の課題を設定する。定期テスト前の朝の自主学習の時間を活用し、重点的に補習を行う。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」において3pt向上させる。(R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・英語の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。)	⇒ 各教科の授業において、「PowerPoint」等のMicrosoftofficeアプリや「ムーブノート」等を用いながら主体的・対話的で深い学びを多角的なものに見方や課題解決に向けて協力しあう態度が身につくよう指導する。特別支援学級においては具体物を積極的に用いて視覚的イメージを持つことで、自ら考え、表現しやすくする環境づくりを推進する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「家庭学習」の質問項目において、肯定的な回答の割合を70%以上にする。 また、市学習状況調査「授業における主体性」の質問項目において、肯定的な回答の割合を市平均よりも上回る。	⇒ 各教科では学習カードを積極的に取り入れる。単元の学習計画を提示し、授業終了後や単元終了後に自分の理解度や改善点などについて振り返りを行わせる。また生活記録ノートと学習計画表を合体させた学習計画表をテスト期間中に全学年で導入する。生徒の学習状況を把握し、必要な生徒に定期的にアドバイスやフォローアップを行う。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
全国学力・学習状況調査結果	
知識・技能	国語、数学の両教科とも、R5年度の結果は全国の結果を上回っている。しかし、目標としていたR4年度の自校結果と単純に比較するのは、問題の内容や全国平均正答率の変化があり、困難なため、③の目標を修正する。国語では、全国平均正答率が上がっている中で、自校結果は全国の結果を4pt越えることができた。数学では、全国平均正答率が下がっている中で、自校結果は全国の結果を5pt越えることができた。英語では、評価の観点で全国平均正答率を大きく上回った。
思考・判断・表現	国語では、R4年度の平均正答率を2pt越えることができた。全国平均正答率が上がっている中で、自校結果は全国の結果を5pt越えることができた。数学では、R4年度の平均正答率を2pt越えることができた。全国平均正答率が上がっている中で、自校結果は全国の結果を7pt越えることができた。「Dデータの活用」の平均正答率だけが全国より下回ったが、この問題は無回答率の高さが目立った。英語では、評価の観点で全国平均正答率を大きく上回った。
主体的に学習に取り組む態度	生徒質問紙の「(16)家で自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含む)」では、肯定的な回答の割合が約60%となり、全国の肯定的な回答の割合を越えている。また、80%以上の生徒が学習塾の先生や家庭教師の先生に教えてもらっていると回答し、全国の割合を大きく上回っている。自分で計画を立て、学習しながらも塾や家庭教師に教えてもらうことで、学習の振り返りや予習ができていた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	R4年度とR5年度では問題の内容が変わり、比較が困難なため、「R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・英語の「知識・技能」において全国平均を上回る。」に修正する。	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	R4年度とR5年度では問題の内容が変わり、比較が困難なため、「R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・英語の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。」に修正する。	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	
中2	
中3	

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能		
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)